

岡山から日本を元気にするフリースタイルダンサー
FREEDOM vol.18
JAN 2016

SPECIAL INTERVIEW -2-

前田 公輝

SPECIAL INTERVIEW -3-

有村 架純×高良 健吾

SPECIAL INTERVIEW -4-

広末 涼子

PHOTO REPORT [1.1.21 JAPAN MOVE UP -SPECIAL EDITION vol.7-]

Dream

Aya/Shizuka/Erie

SPECIAL COLUMN

EXILE TESTSUYA



O K A Y A M A
MOVE UP

SPECIAL INTERVIEW -1-

GENERATIONS

from EXILE TRIBE

小森 隼 / 中務 裕太

日本を元気に!
SPECIAL
INTERVIEW

GENERATIONS from EXILE TRIBE

小森隼 × 中務裕太

HAYATO KOMORI

YUTA NAKATSUKA

EXILE、三代目 J Soul Brothers に続く若き次世代のグループとして、2012年11月21日に「BRAVE IT OUT」でデビューした GENERATIONS from EXILE TRIBE。彼らは、毎年確実にステップアップし、ミュージックシーンをにぎわしている。昨年は日本各地でホールツアーを行ったほか、ヨーロッパ、アジアを巡ったワールドツアーも大成功。また、10枚目となるシングル『ALL FOR YOU』は E-girls 石井杏奈初主演映画「ガールズ・ステップ」の主題歌となり、1位を獲得。さらに、ブルボンやサマンサタバサなどのCMにも起用されるなど、活躍の場所を広げている。自分たちの手で、ひとつずつ夢の扉を開いていった GENERATIONS from EXILE TRIBE。今年は初の単独アリーナツアーも決定し、さらに飛躍の年になりそうだ。メンバーの小森隼と中務裕太が2016年の GENERATIONS from EXILE TRIBE について語る。



チャレンジする気持ちを忘れずに挑

ニューシングルは過去最高にアップテンポなパーティーチューン

一木「まず昨年1年間を振り返ってどんな年でしたか」

中務「一番うれしかったのは初の単独ツアーです。ホールというすごい近い距離だったので、改めてファンの皆さんの顔を見られたのはすごいうれしかったですし、もっともっと大きい会場でファンみなさんに喜んでいただけることをしたいという夢が広がった1年でした」

小森「いろいろと感じる年でした。毎年さまざま経験をさせていただいて、それこそ2014年だとEXILE TRIBEとしてドームのステージに立ったりなど、毎年毎年違うことをやらせてもらい、多くの事を吸収できた。先輩方抜きでツアーをしたり、日本以外の国でライブをしたり、これまでの経験では感じることでできなかったものを感じられた1年だったので今年はその感じたことを生かせればいいと思います」

—「1月27日にニューシングル『AGE HA (アゲハ)』がリリースされるということですが、どんな感じの曲ですか？」

中「とにかくこれまでで一番のパーティーチューンで、聞いていてもすごくテンションが上がりますし、僕たちも踊っていてもすごく楽しめる楽曲です。めちゃくちゃアップテンポで、過去最高にノリノリな曲。まさにアゲアゲです(笑)。アゲハというタイトルは、サビの歌詞にある“I GET HIGH!!!”が“アゲハ”に聞こえるから付けられたタイトルなんですけど、アゲアゲっていう意味も含まれているんじゃないかな(笑)。ぜひミュージックビデオを見て、曲と踊りを楽

しんで下さい」

小「曲自体すごくアップテンポの楽曲で、ダンスチューンっていうよりパーティーチューンな感じなので、僕らの世代や、そのちょっと上の方々が聞いても一緒に盛り上げられるような曲です。ちょっと若めというか、僕たち世代が一步背伸びしたような大人っぽいアダルトな雰囲気も入っています。ミュージックビデオも女性の方がエキストラで出演しているシーンもあるので、そこも楽しみにして下さい。また、裕太君が言ったみたいに、サビに“I GET HIGH!!!”って入っているので、とにかくみんなで盛り上がりたえればうれしいですね」

—「特にここが一押しっていう歌詞はありますか？」

中「サビの部分は結構好きですね。“加速する時代駆け抜けていこう We’re singin’ I GET HIGH!!! 踊るように自由に舞えばいい We’re singin’ I GET HIGH!!!”。とかすごく自分たちに当てはまるなという感じがします」

小「サビ前のBメロ近くの“逃げ腰のプライドなんていらぬ 殻を破ったら踊り明かせ”のところが音的にもちょっと沈んだトーンで、振りもちょっと決めている感じの部分でもあるので、そこはGENERATIONSらしさというところで見ると、新しい魅力でもあるかなと思います。もちろん歌詞もすごくいいです」

—「新曲の収録時はどんな雰囲気だったんですか」

小「今回僕と裕太君がMVでアクロバットに挑戦しているんですけど、そこに関しては2人だけの計り知れない緊張感がありまして(笑)。撮影も長時間でしたし、



戦者であり続けたい

アリーナツアーを次の夢につなげられるものにしたい

また早朝に撮ることが多く、なかなか体のエンジンがかからなかった(笑)。その中で成功させたいという気持ちと不安も少しあったので、2人で楽屋の外にある廊下で練習したりとか、お互い声かけあったりしていました」

中「割とみんな緊迫していましたね。今回は世界さんと THE RAMPAGE from EXILE TRIBE の4人もMVに出演していただいて、ダンスの掛け合いじゃないですけど、ダンスバトルのようなシーンも織り交ぜながらだったので、そのシーンやソロダンスシーンの作り込みや追い込みを各々やっていましたね」

一「去年は全国ホールツアーを成功させて、今年は夢だと言っていたアリーナツアーも決まりましたね」

小「アリーナツアーについて具体的な話はまだないんですけど、春にはスタートします。去年は1月に『Sing it Loud』をリリースして、それで弾みをつけてホールツアー、ワールドツアーを回らせていただきました。そういう意味では『AGEHA』も1月にリリースし、そこから1年が始まって、アリーナツアーにつながっていくのかなと思います。去年はホールツアーで細かい場所を回らせていただいて、今度は規模を大きくして、またいろんな人に見ていただける。GENERATIONSというフィールドが広がったんだなというのを感じていただけのようなツアーにしていきたいと思います」

中「アリーナツアーはずっと夢だったので、今回やらせていただけるのはとてもありがたいこと。もちろん自分たちの力だけでなく、事務所と先輩方の力のおかげというのは絶対あるので、このアリーナ

ツアーで今まで経験してきたことを存分に発揮して、ちょっとでも事務所と先輩たちに恩返しできたらと思っています。また、このアリーナツアーをただ夢を叶えたというだけで終わらせるのではなく、それをまた次の夢につなげられるようなものにできたらなと思います」

一「春からスタートするならこれから準備やリハーサルで忙しくなるのでは?」

中「時間はないといったらありませんし、作れるといったら作れるんですけど、まだそこまで切迫した感じはないです。でも時間がなくても、トレーニングなどで自分たちを追い込んで、体もバッキバキで挑みたいと思っています。若いのでバッキバキにして(笑)。パフォーマンスもすごい僕たちらしいものをしっかり届けたいというのはありますね」

一「ファンの皆さんにメッセージをお願いします」

中「2016年は初の単独アリーナツアーもありますし、GENERATIONSとしても4年目に入るので、ここからもっとたくさんの夢を叶えられるように、頑張っていきたいと思います。また、ファンのみなさんの支えあってだと思うので、しっかり恩返しできるように、2016年は突っ走っていきなと思っています」

小「2016年は2015年に吸収したことを生かせるような年にしたいなと思うのと、チャレンジする気持ちを忘れずに、常に挑戦者で何事にもアタックしていきたいなと思います。ファンの皆さんのサポートもすごく後押しになるので、ぜひ今年も応援をよろしくお願いします」





読者からの質問に小森隼と中務裕太が直接答える 答えて！小森隼さん、中務裕太さん

◆今回の楽曲はみんなで踊るパーティーチューンでリハの時からバキバキになるほど踊ったそうですが新曲を一言で表すとなんですか？（ゆきさん）

小「楽。楽しいって一文字。今回ボーカルも結構MVで踊っているの、リハサルもみんなで朝からやるのがあったので、全員で集まってできて楽しくやってきたなと（笑）。パーティーチューンというだけあって、曲も楽しいし、とにかく楽しかったです」

◆ダンスのパフォーマンスについてライブでみんなにやってほしいところがありますか？（ちひろちゃん）

中「サビですね。“I GET HIGH!!”って

いうところで、すごく分かりやすい手を横にするだけの振り付けがあるので、それはぜひ一緒にやってほしいですね」

◆新曲はパーティーチューンな曲ということですがどんなことをイメージしながら振り付けされましたか？（はなえさん）

中「今回は玲於の知り合いのダンサーにお願いして、振り付けしてもらって、2サビとかは僕と玲於が作りました。イメージは、キャッチーな感じとかは、いつものテーマなんですけど、それに加えてパーティーチューンなので、見えていて心が高揚するような振りをイメージして作りました」



OKAYAMA MOVE UP 総合プロデューサー
一木広治 (ICHIKI KOJI)

株式会社ヘッドライン代表取締役社長 / 二十一世紀倶楽部理事・事務局長 / 夢の課外授業総合プロデューサー / 2020東京オリンピックパラリンピック招致委員会事業・広報アドバイザー (2011年～2013年) / LDH顧問エグゼクティブプロデューサー / ローソン・ローソンHMVエンタテインメント顧問 / チヨダ顧問 / 総合PR会社vector (ベクトル) 顧問 / USEN 顧問 / ファインシード顧問 / MOCA ENTERTAINMENT (フォーシーズグループ) 顧問 / スリープセレクト顧問 / 白寿生科学研究所顧問 / 淑徳大学人文学部表現学科客員教授 / 早稲田大学理工学部 EDGE プログラム講師 / NEXT INNOVATOR2015 サポーター / 経済産業省 JAPAN MOVE UP ワーキンググループ・プロデューサー



1月27日(水) NEW SINGLE 発売「AGEHA (アゲハ)」
【CD+DVD】1800円 【CD ONLY】1000円 (いずれも税別)

PRESENT 小森隼、中務裕太のサイン色紙をプレゼント!

OKAYAMA MOVE UP Vol.18の発行を記念し、今回巻頭インタビューで登場いただいた小森隼、中務裕太のサイン色紙をプレゼント。ご希望の方はOKAYAMA MOVE UPのフェイスブックページをチェック!



OKAYAMA MOVE UP

検索

SPECIAL
INTERVIEW最新映画『ホテルコパン』で
出会った、とびきりの“希望”

前田公輝

GOKI MAEDA

6歳で芸能界デビューを果たし、バラエティ番組『天才テレビくんMAX』（2003～2006年）のMCとしても人気を博した子役時代を経て、現在は話題のドラマへの出演が相次ぐ注目の若手俳優に成長。さらなる飛躍を目指す彼が語る、希望の物語とは。

充実の2015年を終えて。俳優・前田公輝の現在地。

「2015年は俳優として、かつてなかったほど楽しい年でした（笑）」と屈託のない笑顔を見せた前田公輝。笑うと子役時代の面影がよみがえる前田だが、現在は若手俳優として活躍。話題のドラマや映画に出演し、演技力に加えさわやかなイケメンぶりで注目を集めている。

「2015年、僕は24歳の年男だったんですが厄払いに行かなかったんです。役者の中には“役を払う”ことになるからと、厄年でも厄払いに行かないという方もいらっしゃるみたいなんです。僕もわりと縁起を担ぐほうなので（笑）、それを知って行かずにいたんです。そのおかげかいろいろな役を頂くことができて、本当に充実した一年になりました」

2015年は『だから荒野』（NHK BSプレミアム）、『アルジャーノンに花束を』（TBS）、『デスノート』（日本テレビ系）、『コウノドリ』（TBS）など、話題のドラマへの出演が続いた。

「考えてみれば、連続ドラマの出演が4クールも続いたのはこれが初めてだったんです。1年通してドラマをこなしたという経験は、勉強にもなりましたし自信にもなりました。レギュラー出演の作品と単発の作品を同時期にこなしたのも、今年が初めてでした。1日ごとに陰の役と陽の役を入れ替えるということが数日続いて、自分のなかで切り替えのスイッチを意識するという作業を経験できたのは、成長につながったと思います。確かに大変でもあったんですけど、その大変さも楽しかったですね。自分にとっては、高校1年生のときに

役者を一生の仕事にすると決意してからずっと夢に描いていた状況でしたから。俳優人生で一番、楽しい年だったかもしれません。厄払い、行かなくてよかった（笑）」

ドラマや映画はもちろん舞台もこなす。そんな前田が感じている、ドラマ、映画、舞台それぞれの面白さとは？

「まず連続ドラマの場合、必ずしもラストまでの台本が最初から揃っているわけではなく、物語の終わりまでの大まかな流れしか分からないまま役を演じることが多くて、そこが映画との違いであり、連ドラならではの面白さかな、と思っています。役の全容が見えないので、憶測で演じている部分も少なからずあるんですけど、人物の根本的なところをつかんでおけば、あとは物語の流れの中で、場面に合わせて共演者と芝居を作っていく。そこにやりがいと面白さを感じています。映画の場合は基本的に、細かく構成されていて結末も分かっている状態で役作りをするので、僕はわりとラストから逆算して役作りをすることが多いです。ラストでこうなるからこの場面ではこう…というふうに。あと、自分のイメージと演出に違いを感じたら、すぐ監督に確認するようにしています。そうすることで監督のイメージを正しくつかむことができるし、自分のなかでも新しい発見になって、その一場面のことだけでなく、役そのものを深めていくことができるので」

2010年に『白虎隊・ザ・アイドル』で初主演にして初舞台を踏んでからすでに7

芸能活動で忙しかった中学時代。 これじゃダメだと、1日10時間もの猛勉強をしました

本物の舞台を経験。

「僕はまだ経験といえるほど舞台をこなしてはいませんが、それでも舞台ならではの面白さは感じています。特に、舞台では最初から最後まで感情を途切れさせず芝居をし続けることができる、という部分が好きです。あとは360度見られているので、常に意識を役のままに保ち続けることができる。映像だと、セリフがない場面、自分にフォーカスが当たらない場面がありますけど、舞台ではお客さんがいつどこを

見ているかわかりませんから。気は抜けないですが、役に入り込んだ状態を保つことに、またやりがいがあったりします。そういう意味でも“カット!”という声が入らないのは楽しいです(笑)。ただ、ドラマであれ映画であれ舞台であれ、監督や演出家の方からお芝居をつけて頂くのは毎回、楽しいです。頂いた“型”の中で、どれだけ自由な気持ちで芝居ができるか試行錯誤するのも好きだし、完全に型にはまりすぎるのも好きですね」

様子。

「どん底にいる人たちがばかりが集まってきて、あの一夜でさらにどん底な状況へと突き落とされる…。あのホテルには、そういう人たちを引き寄せる目に見えない何かがあるのか。ある意味、ホラー要素があるホテルですよ。僕が思うに、近藤さん演じるオーナーの負のオーラが、絶望を引き寄せているんじゃないかと(笑)。最初に台本を読んだとき、まったく異なる事情を抱えた人たちの運命が一点に向かっていく感覚が、すごく面白いと思いました。まるで転げ落ちるように、登場人物がそれぞれ絶望的な事態に向かって進んでいくなかで、彼らの運命が絡まり合っていて、いつしか一つにつながっていく。その過程にどんどん引き込まれていきました」

少しずつ明らかになる登場人物たちの

絶望的な背景。その中で前田演じる斑目と大沢ひかる演じる美紀は、一見どこにでもいるラブラブなカップルだが…。

「門馬監督とは、一見どこにでもいるようなカップルなんだけど、どこかしら違和感を出していければいいね、という話をしました。その違和感というのが、まだ付き合いたてだからなのか、別れる前だからなのか、倦怠期なのか、それとも他に理由があるのか。何かは分からないけど、どうやら何かある、と。斑目役で意識したのは“YESマン”になろう、ということでした。美紀に対して常に優しい“YESマン”だからこそ、むしろ裏を感じてしまう。といっても、他の宿泊客は、僕ら以上にパンチのあるキャラクターなので(笑)、彼らに比べれば“あのカップルは大丈夫なんじゃない?”と思わせる…という方向でいこう、と。ただ結局、僕らがクライマックスの大崩壊のきっかけになってしまうんですけど(笑)」

撮影中、こんなエピソードも。

「撮影時、キャストたちはロケをしたホテルに宿泊していたんです。なので自分のシーン以外も、よく近藤さんの撮影など、見学していました。撮影時間外に、よく階段の踊り場に集まっていたんですけど、夜そこで近藤さんと2人になったことがあって。そのとき、お父さんのように包んでくれたというか…。芝居の相談をいろいろ聞いていただいていたところ最後に“お前は大丈夫だよ、自分の信じた道を行けばいいよ”と言ってハグしてくれたんです! あんな先輩にハグなんてされたのは初めてで、そのときはさすがにウルッと来ちゃいましたね(笑)。以来、撮影後もときおりご飯に連れて行っていただいたりします。本当に、カッコいい方なんです。イケメンってこういうことだと思います」

前田にとってかけがえのない出会いとなったこの作品。登場人物たちの出会いもまた、絶望の先に希望をもたらすものになるのだろうか…。最後まで目が離せないストーリーとなっている。

新作『ホテルコパン』はホラー要素のある感動作!?

2016年、3年前に撮影して以来、前田が大切にしている作品がついに公開となる。それぞれに事情を抱えた人々の運命が、とあるホテルで交錯する群像劇『ホ

テルコパン』。壮絶な過去を匂わせるホテル従業員・海人(市原隼人)やホテルの人気回復に奔走するオーナー・桜木(近藤芳正)をはじめ、宿泊客もみな訳アリな



芸歴 19 年。一步一步、学びながら見据える可能性。

幼いころから芸能界で活動してきた前田にも、くじけそうな時期があった。「ずっと芸能活動をしていたので、みんなと一緒に青春時代を過ごせない時期があって、そのときは辛かったですね。とくに中学時代は、仕事で何日も学校に行けないということもよくあって。普段、大人に囲まれて仕事をしているせいか、言動も学校の友達と微妙にズレてたりして、疎外感を感じることもよくありました。成績も良くなかったですね（笑）。中学3年のとき、さすがにこれはまずいと思って勉強したんです。他の生徒が受験勉強をしているなか、中学1年からやり直しました。けっこう恥ずかしかったですけど（笑）。その時期は1日10時間くらい勉強しましたね。実際、それで救われた部分がありました。1年間、真剣に勉強したことによって、やっとみんなと同じ知識が身に付いただけでなく、みんなと一緒に学校生活をしたような気持ちが持てたんです。すると自然とみんなとも気持ちを共有できて。勉強って大事ですね（笑）」

しかし同時に、当時の芸能活動は現在につながる大きな力にもなった。「『天才テレビくんMAX』で3年間やらせて頂いたのが一番長いレギュラーの仕事なんですけど、そこでの経験や出会いは大きかったですね。当時、僕は中学生。いま映像を見返すと、本当にかわいげがない子供だったな、と思います（笑）。とはいえ、メインMCとして番組の進行をしたり、大人のゲストをお迎えしてインタビューしたりと、僕自身は必死でしたけど。頭の回転をフルスロットルさせて。自分でも頑張っていたとは思いますが（笑）。当時、

番組で子役たちのアドバイザーを務めている方がいて、僕はよく叱られていました（笑）。でも番組を卒業して10年ほど経ったころ、番組の特別イベントでお会いしまして、深い愛情を持って育てていただいたということに、やっと気づくことができました。当時は本当に嫌いだったんですけど（笑）」

俳優という夢を早くに叶えた前田にとって現在の夢とは。

「これは、永遠に無理なんですけど（笑）、自分に100点を付けること、が夢ですね。もう完璧な花丸を自分自身にあげられるような作品を作ることが夢です。でも満足することなんて無いんでしょうけどね（笑）」

夢を追う人たちにメッセージを。「これは自分の経験上、思ったことなんですけど、自分とは違う意見や考えを聞いたとき、それを全否定するのではなくて、一度飲みこんで新たな可能性や発見を探してみる、ということがとても大事だと思うんですね。僕も一時期は自分が大正解、人の意見は聞き入れないという時期がありました。もちろんぶれずに自分を持つことは大切だけど、そういうのは自分の中だけで持っていればいい。僕は、人でも食べ物でも“嫌い”という言葉を経験的に使っていないで“苦手”という言い方をしています。嫌いと言ってしまうと、好きになる可能性も自分で消してしまう気がする。結局、可能性を自分で潰さないことが、一番夢を実現させるうえで必要な事じゃないかと思っています」

可能性の大切さを知るからこそ、自分自身の可能性を信じることができる。俳優・前田公輝の可能性は無量大。

POSITIVE ITEM

家族

「家族ですね。僕にとって、常に絶対的な味方でいてくれる存在ですから。うちの家族は、よく集まるんですよ。家族の誰かが一緒にいると、必ず全員に集合をかけるんです。家族で集まっているときは、仕事をしている自分とは違う、家族の一員としての自分に戻ることができる。それは僕にとってすごく大切な時間なんです。

アニメ鑑賞

「もともとアニメ好きなんですけど、いま日々の癒しになっているのが『ドラゴンボール超（スーパー）』の放送を見るひと時です」

コメディから学ぶ

「よく見るのはコメディ映画です。特にジム・キャリーが大好きなんです。ジム・



撮影・髙野裕

キャリーって、あれだけ個性が強い顔なのに作品ごとにまったく違う人物に見える。あれはあの方の細かい演技の積み重ねによるものだと思いますね」

PRESENT 前田公輝さんから読者3名にサイン色紙をプレゼント!

前田公輝さんのサイン色紙をプレゼント。ご希望の方はOKAYAMA MOVE UPのフェイスブックページをチェック!



INFORMATION

『ホテルコパン』



©2015 and pictures

監督：門馬直人 出演：市原隼人、近藤芳正、大沢ひかる、前田公輝他／2時間15分／クックワークス配給／2月13日（土）よりシネマート新宿他にて全国順次公開 <http://hotelcopain.com/>

ドラマ『いつかこの恋を思い出してきっと泣いてしまう』で初共演&主演

SPECIAL
INTERVIEW

有村架純 × 高良健吾

Kasumi Arimura

Kengo Kora

新ドラマが各局でスタートする。ドキドキやワクワク、スリル……さまざまなドラマが顔をそろえるなかで、やはり注目されるのが月9の本格ラブストーリー『いつかこの恋を思い出してきっと泣いてしまう』だ。本作で初共演&主演する有村架純と高良健吾に聞く。

ドラマ『いつかこの恋を思い出してきっと泣いてしまう』（フジテレビ系、月曜午後9時、18日スタート）。少し長めのこのタイトル、ラブストーリーというフレーズから、胸キュンで切なくてという物語を思い描いた人は少なくないはずだ。ただ、その想像、間違いではないかもしれないが、当たりとはいえないようだ。

高良健吾（以下、高良）「……ドキドキとあって恋愛の最初の部分だけじゃないですか？ それを乗り越えちゃってる人たちだと思うんです」

有村架純（以下、有村）「うん、少なくとも胸キュン……ではないよね」

高良「ヘビーでもない……」

有村「全然ヘビーではないね」

高良「……どんなラブストーリーか、うーん、運命かな。あの出会い方！」

有村「それだ！ 運命のラブストーリー。名前も電話番号も知らなくて、毎日連絡とってどうしてってことでもないのに、見えない何かでつながっている。運命だし、本当の純愛なんじゃないかな」

本作で初共演を果たす2人。視線を交わしながらベストな表現を探り合う。急ぐわけでもなく、だからといってゆっくりというわけでもない。尋ねているほうも、心地よいテンポ。いいタッグが組めている

のが、聞かずとも伝わってくる。

互いの存在はさまざまな作品や関わったスタッフなどを通じて知っていたというのが、現場で「はじめまして」と顔を合わせた。「会う前に、会う。そういうことをしなかったんですよ」と高良は言う。

高良「お世話になっている廣木（隆一監督）さんから、いろいろな話を聞いていました。廣木さんが撮影が始まる前に会って食事しようかと有村さんを誘ったそうなのですが、有村さんは現場で会いたいと答えたそうなんです。事前に会っておきましようということが多くなかで、会わないというほうを選ぶ。僕もそのほうが好きだなと。（現場で）会う前に安心するというより、現場でははじめましてというほうが正しいと思うんです。それで、（有村さんは）負けず嫌いだと聞いていたので、会った時に確かめてみたんですが、自分に！ だそうなんです。すてきな子だなあ、と思いました」

有村「いろいろな作品も拝見させていただいて、とてもすてきな役者さんだとずっと思っていましたし、廣木さんが“2人は似てるよ”とおっしゃってくださったこともあって、本当に現場に入るのが楽しみでした。はじめましてって会ったとき、高良さんが手をとってくれたんですけど、本当にすてきな人だなって。一緒に頑張っていきたい、お互いが困ったら助け合いたいなって思いました」

劇中では、互いに地方から東京に出てきた若者を演じる。有村演じる音（おと）は北海道生まれ、育ての親に家政婦のように扱われてきた女の子。高良いわく、「健気だし、どんな状況になっても人のせいにしない子。有村さんがやっている音はいろんな人が応援したくなるはず」。

有村「音って、自分の欲をあきらめていた子なんです。恋をしたい、ものが欲し

い、外でご飯を食べたいとか、みんながやってることもあきらめちゃって、鳥かごの中で生活しているような。でもその中で楽しいことは楽しいとやってる感じで、全然生きていけるんですよ。ただそれって強いように思えるけど強くないというか、悲しいことだとも思います。自分の奥底にある感情は絶対になくしてはいけないと思うので、それを根本にいろんなことを表現できたらいいなって思っています」

一方、高良演じる練（れん）は祖父がだまし取られた土地を取り戻すために、故郷の福島を離れて、東京で働く。

高良「撮影に入る前、台本を読んでいて練には怒られてるみたいなきがしたというか、みんなが練のようにできたら世の中うまくいく、最高なんじゃないかなと思っていました。まあ、そんなふうにはいかないんですけど……。でも演じ始めてみたら、練が理解できるようになってきたというか、練みたいな行動をしそうな人、自分のなかにちょっといるなと思うんです。練だけでなく、音、悪友の晴太だったり出てくる人物が、誰の中にもちょっとある、撮影していてそんな発見がありますね」

有村「音についてもきっとそうです。あきらめちゃっていることって、みんなそれぞれあることだと思うので、音を見て、自分にもこういうことあったなって思い出してもらえたり、共感してもらえたらうれしい」

それぞれの役について語るなかで、本作は「地方出身者ならより共感する」と口を揃える。有村は兵庫、高良は熊本。2人とも役どころと同じで、上京してきた身。音、練とはフィールドこそ違えど、東京でもがきながらも、楽しんでいる。

高良「僕は地元が最高！ で、もし可能ならば熊本、それ以外ならば博多から通いたかった。でも難しかったから上京したんです。最初のころは、もんもんとしていた



音と練の出会いは運命。 見えない何かでつながっている。 本当の純愛じゃないかなって思う。

し、ここで生きていく覚悟もなかったから東京のせいにしていました。でも今は変わりましたね、おもしろい人たちに出会えるから。この世界で仕事をさせてもらっているから感じるのかもしれないですが、みんな気合が入ってるんです。東京はギリギリのところやらなきゃならない場所。でも、仕事をするとこから、そういうのがいいんじゃないかと」

有村「私は早く上京したかったんです、仕事をするために。最初は、友達もできなかったから、お休みがあっても1人で寂しかったんですけど、遊ぶためにきたわけじゃないって。でもここ2～3年かな、東京に自分の居場所ができたなって思えるようになりましたね」

高良「この台本にもあったんですけど、東京は思ったより緑が多いですね。漠然とテレビで見ていた東京は、渋谷のスクランブル交差点だとか、映画や雑誌で見ている東京、歌詞のなかに出てくる東京だったんですけど、少し離れると熊本と変わらないぞと(笑)。そういう東京の魅力もこのドラマで感じられることだと思います」

初回放送を控え、撮影も順調に進んでいるという。音と練の呼吸もさらに合ってきた。

有村「本当にすごくやりやすい、ナチュラルな会話ができていると思います。坂元裕二さんの台本のすばらしさだと思いますが、日常の、なんてことない会話なのに、すべてが大切に削れない。会話のテンポもすごくいいんです」

高良「ちぐはぐなのに、2人の間では絶対噛み合っている、それがすごいおもしろいですね。初回に音と練の出会いがあるん

ですが、出会ってからの会話、そのテンポ。このテンポがすごいんです。この出会いは運命だなというのが感じられると思います。現場で、2人でこうやろう、こうやって演じよう、と話したりはしないんですが、最初からそういうテンポを出せたのは有村さんの音とだったからだと思います。自分の目の前に人がいることで、台本を読んでいて感じた感情が広がっていく。いい方向に変わっていきます」

有村「撮影を重ねる中での変化や発見って自分では気づきにくくて、自分の演技が具体的にどう変わったかっていうことは分からないんですけど、絶対に心は動かされていますね。例えば、練くんを見ていると涙が出てくるし、練くんとのシーンはうれしいんです」

一斉にスタートする連続ドラマのなかでも期待も注目も集まる月9。プレッシャーを感じないこともないだろう。それでも有



撮影・神谷渚 有村架純/メイク・尾曲いずみ、スタイリスト・瀬川結美子 高良健吾/メイク・竹下フミ(竹下本舗)、スタイリスト・澤田石和寛

村は「このドラマでスタートできるってこの1年いいことしかないんじゃないかなって思う」と瞳を輝かせる。高良も昨年からは繰り越しだという目標、カメラの前で「ちゃんとその場所に入れる人になりたい」

を達成するために、練、そしてこのドラマに向かい合う。

「とにかく一生懸命2人で頑張ります」。そう静かに意気込む“運命”のラブストーリーは18日から。(HL・酒井紫野)

見れば間違いなく泣いてしまう！

『いつかこの恋を思い出してきっと泣いてしまう』1.18スタート

有村架純と高良健吾。ともに映画やドラマ、CMなどで活躍し、顔を見ない日はないといっても過言ではない注目の俳優だ。そんな彼らが初共演&主演するラブストーリーを演じるのが、18日にスタートするドラマ『いつかこの恋を思い出してきっと泣いてしまう』(フジテレビ系、月曜午後9時)だ。

本格ラブストーリー、群像ラブストーリー、そしてリアルラブストーリーというのがキャッチ。脚本を手掛けるのは、『東京ラブストーリー』をはじめ、『それでも、生きてゆく』、『最高の離婚』、『mother』、『woman』といった傑作ドラマを数々手掛けてきた坂元裕二。それだけに一筋縄ではいかない、いろいろな角度から楽しめる物語に仕上

がっているよう。インタビューで、有村も高良も語っていたように、運命のラブストーリーだという。

物語は、有村演じる音と、高良演じる練を中心に展開。音は北海道で生まれ育ち、育ての親に家政婦のように扱われながら暮らしている。一方、福島で畑を営む祖父に育てられた練はだまし取られた畑を買い戻すため、東京の運送会社で毎日へとへとになるまで働く。なんの関わりもない2人が、あることをきっかけに運命的な出会いをして……。

音と練を取り巻くキャストも豪華そのもの。練の恋人に高畑充希、介護施設を経営する社長の息子に西島隆弘、練の幼なじみに森川葵、練の友人に坂口

健太郎と注目の若手が揃う。その他、浦井健治、永野芽郁、高橋一生、松田美由紀、小日向文世、八千草薫らが物語に深みを与える。

主題歌は、手寫葵が歌う『明日への手紙』。手寫が昨年発表したアルバムに収録されていた曲だが、その歌詞や手寫の歌声がドラマの世界そのものとドラマ側が熱烈オファー。ドラマのため



つらい過去を背負いながらも明るく前向きに生きようとする音と練。そこに4人の男女の想いが複雑に絡み合いながら物語が展開する。悩みや困難を抱えながらも生きる若者たちの姿が多くの人々の心を打ちそうだ。

に蔦屋好位置がリアレンジなどトータルプロデュースし、オリジナルバージョンとして完成させた。

実話から生まれた、奇跡の映画『はなちゃんのみそ汁』

SPECIAL
INTERVIEW

広末涼子

Ryoko Hirotsue

結婚、妊娠、出産と人生の転機を、がんと闘いながら生きた女性が、家族との日常や食への思いを明るく綴ったブログから生まれたエッセイ『はなちゃんのみそ汁』。2012年に発売されるや、社会現象となるほどの反響を巻き起こした同著を、主人公・千恵役に広末涼子を迎えて映画化！ 幅広い役柄をこなしてきた広末が“今回、役作りは必要なかった”と語った理由とは？

ずっと心に残っていた、 小さな背中

恋人との幸せな将来を信じていた千恵は20代で乳がんを宣告される。千恵をそばで見守る決意をした恋人・信吾のプロポーズを受けて結婚、そして奇跡的に妊娠。周囲に支えられ、千恵は娘・はなを出産する。そして家族3人での穏やかな暮らしが5年目を迎えたとき、千恵はある思いを持って、はなに“みそ汁”の作り方を教え始める…。

がんと向き合いながら家族との日々を懸命に生き、33歳でこの世を去った女性・安武千恵の実話を『ペコスの母に会いに行く』で脚本を担当した阿久根知昭監督が映画化。今回、主人公・千恵役のオファーを受けた広末は、何よりも大切にされたものがあると振り返る。

「今回の映画化で千恵さん役に、とのお話を頂いたとき、私は原作やドラマ化作品を拝見していませんでしたが、以前に偶然、はなちゃんのドキュメンタリー映像を見たことがあって、とても印象に残っていたので、ぜひやらせていただきたいとお返事しました。とはいえ、最初の台本は、あまりにも切なく、苦しくなっちゃったんです。がんと向き合った千恵さんの物語を描く以上、闘病体験抜きに語ることはできません。矛盾しているようですが、そんな千恵さんたちの物語を明るく描きたいと思ったんです。もちろん現実には簡単なものではなかったでしょうし、千恵さんの本からもいかに大変だったかを読み取ることができるのですが、映画だからこそできる『はなちゃんのみそ汁』を描いたら素敵だな、と。最終的に阿久根監督が、千恵さんのユーモアや笑顔をクローズアップして脚本を書いてくださいました。笑いが入ることでテンポもよくなり、あたたかい物語になったと思います」

がんと向き合いながらの結婚、妊娠、出産、そして子育てという過酷な運命ながらも、本作では千恵のブログに綴られた笑いあり喜びありの日常を主体に描いていく。

「以前、ドキュメンタリー映像で、はなちゃんが台所に立っている映像を見て、それだけで涙が出たんです。たまたま偶然、その場面を目にしただけだったんですけど、その一瞬の光景に、すごい説得力を感じました。はなちゃんの嘘の無い立ち姿が、自分にとっては本当に衝撃的だったので、映画になっても、きっとみんなを引

きつけるお話になると思いました」

台所に立つ小さな背中が語りかけてきた深い愛の物語。そのあたたかさが伝わる作品にしたい。それが広末の願いだった。「千恵さんのことを知れば知るほど、共感と、演じることへの責任感が増していったのですが、“泣かせる映画”にしないでいいのではないかと、思ったので、重たくなり過ぎないように、常に心がけていました。なぜなら、泣かせようと意図して演じたり演出したりしなくても、十分、涙がこみ上げてくる作品だから。見る人が自分でいろんなことを感じられる作品になるほうがいい。物語の構成も、感動的なクライマックスを描くためにストーリーを組み立てていくというより、日記を切り取るように日常を丁寧に描くことで、むしろその何気ない風景にグッと来たり、あたたかくなったりすると思うんです。そんなところもこの作品のユニークなところではないかな、と思います。だから私も、日常を大切にしたいという千恵さんの思いを強く意識していました。意外と本当の思いは、特別に“伝えたいこと”や“大事にしていること”だけに込められているわけではなくて、ごく日常の生活にこそ現れていたりするのではないかな、と思うんですね」

気が付けば自然と “千恵”になっていた

千恵を演じる責任を強く感じていたという広末。

「今回、技術的な役作りが、けっこう大変でした（笑）。九州の方言が初めてだったので方言の指導を受け、千恵さんが学んでいた声楽についての基礎的なことも勉強し、三線も習いました。撮影期間が短かったわりに初めて挑戦することが多くて、けっこうプレッシャーでした。方言のテープを聞きながら三線の練習をして…といった状況だったので、もう“うわ〜”って（笑）。でも完成した作品を見たら、自分が何か特別な特訓をしたようには見えなかったのが、ホッとしました。また、医療的な部分は、千恵さんの本を読んだり同じような体験をしている知人の話を聞いたりしました。医療指導の先生には、病状に合わせて状況を教えてもらい、演技に反映していきました。例えばクライマックスのコンサートシーンなどでも、実際にどれだけ声が出せるかなど、バランスを考えなければならなかったのが、細かく相談しながら演じました」

その一方で、気持ちを“作る”役作りは



必要無かったと語る。

「千恵さんは、明るい、強い、優しいという母性の代名詞のような人。加えて、私は千恵さんのユーモア、笑いを大切にす姿にもすごく引かれました。病気を理由に何かをあきらめるのではなく、前向きに、生活のベースにあるものを大切に続けていた。私にはそんな千恵さんが本当に魅力的でした。でもそういう気持ちはきつと、親である人たちはみんな持ち合わせているものなのではないかなとも思うんです。親になると“自分が一番”ではなくって強くなる気がします。自分より優先するものがあることの強さに勝るものはないと思うんです（笑）」

だから、どんな辛さも悲しさも笑顔に変えて、日々のご飯を作る。

「劇中、妊娠したものの治療のために子供をあきらめるべきかと悩む千恵に、お父さんが“死ぬ気で産め”と伝えたのは、千恵にとって生きる上で何が大切になるか分かったうえでの助言だったんだと思います。もちろん実際に自分の人生にリミットが来たり、重い病気と向き合わなければならなくなったとき、自分も含め誰もが千恵さんのように生きることができるかは分かりませんが、彼女の一生懸命さやその姿勢は、大きな励ましになるのではないのでしょうか」

女性として、親として、人として自然に共感できた。

「でも私だったら、千恵さんと違ってずっと

と泣いているかも…と思うくらい、撮影現場では毎日、演じながら心で泣きっぱなしでした。涙をこぼさないようにするのが精いっぱいでしたね。特に、みそ汁作りをさぼろうとするはなを諭す場面や、コンサートシーンでは、テストで泣きすぎて監督にびっくりされたほど（笑）。“分かっています、本番はちゃんとやります、こんなつもりではなかったんです！”って（笑）。千恵が強いからこそ、見ている人に伝わるものがあるんだと分かっているながらも、セリフを口にするだけで涙があふれてしまい、セリフをあまり覚えないようにしようと思ったくらいでした（笑）。そんな感じで、今回は技術的なことを最低限、学んでおいたくらいで、自分だったらどうするかと考えたり、気持ちをやる役作りは必要ありませんでした。千恵さんと自分が同化して、自分のまま演じさせていただいた感じです」

感情を揺さぶられたのは、夫・信吾役の滝藤賢一も同じだった様子。

「滝藤さんも泣きすぎていうくらい泣いていました（笑）。撮影前、滝藤さんは役に引張られることがあまりなくて客観的にお芝居をされる方だから役に感情移入して泣いたりもしない、という話を伺っていたんですけど…全然、話と違う！って（笑）。千恵のお父さんに結婚の許可をもらうシーンやコンサートシーンでは泣きすぎて大変だったようです。前半、がんが悪性という告知を受けたシーンでも“ここ

は冒頭だし、むしろ明るい感じで演じましょう”という話をしていたのに、明るく演じながら、すごく悲しそうな表情になっていて(笑)。でもそんな滝藤さんを見ていたら、これがリアルなのかも、と思いました。私は千恵として、自分のことだから“人を悲しませないように明るくなくては”と思うけれど、相手のこととなるとどうしようもなく悲しくなってしまうものなのかも、と。滝藤さんのお人柄、愛情深さが垣間見えましたね(笑)」

広末が語る、 家族の時間の愛おしさ

劇中に登場するみそ汁は、安武一家そして日本の家族の食卓を象徴する、温かい愛の味。

「私も、子供がはなちゃんと同じくらいのころから一緒にキッチンに立っていて、各自マイ包丁・マイまな板を持っているんです(笑)。レシピを伝えるのではなく、何にでもつき合わせている感じですね。最初はサラダからでした。洗って切るだけで、子供が1人で作った達成感も味わえるので。それから、カリカリにしたベーコンを乗せたり、パーティーのときはちょっと贅沢に魚介を入れたりアレンジをするようになりました。今ではカレーやお味噌汁も定番になっています。お仕事されている女性は多いし、家事と仕事を両立させるだけでも大変ですが、子供ともっと遊んであげたいし、かまってあげたい。でも家事を休むことはできない。だから子供と一緒に家事を楽しもうと思ったんです。千恵さんたちと同じですね。家のことを一緒にするというのは、時間も経験も親子で共有できる、楽しい方法なのではないかなと思います。慣れるまでは、水回りはビシャビシャになるし、時間も労力も倍かかる(笑)。でも、料理をしている間にテレビを見せたり、別々に過ごすよりも、いい時間

になると思っています。私自身、仕事をしているからこそ、そうできたのかもしれないね。限られた時間を一緒に過ごしたいと思ったら、同じことを一緒にするのが一番いい。それで、はなちゃんのようにきちんと家事が身につけてくれたら、それに越したことはないですね」

実際のはなちゃんは、今も千恵さんから教えてもらった通り味噌から手作りで、みそ汁を作る。

「私も、はなちゃんが作ったお味噌を頂きました。本当に力強い味噌で、なかなか溶けないんです。私も味噌を作ったことは無かったので、やはり市販のものとはぜんぜん違うんだと感動しましたね」

一杯のみそ汁のようにありふれた、でも大切な日常。だからこそ、誰の人の心にも伝わる作品。

「私は当初、多くの女性に見てもらいたかと思っていましたが、実は男性からの反響もかなりあるそうです。切ない話だと構えて見始めると、意外と明るくて、楽しんでいたら不意打ちで…って(笑)。私の知人がご夫婦で見てくださったのですが、次の日から旦那さんがお子さんの幼稚園のお見送りを買って出てくれるようになったそうです(笑)。“ママがするのが当たり前”だった日常のことに自分ももっと関わっていかうというメッセージとして、男性が受け止めてくれたのが意外だったのと同時にすごくうれしかったです。旦那さんにもっと家のことに参加してもらいたいと思う奥様たちは、ぜひご夫婦で見にいただけるといいかもしれません(笑)。

夫婦や恋人同士、家族、どんな方にも見てほしい作品になったと思います」
“私はツイていた”—そんな言葉を残した女性の姿を通して描く、家族の愛の物語。愛情こもったみそ汁のように心にしみる映画となった。

(HL・秋吉布由子)



撮影・蔦野裕

『はなちゃんのみそ汁』

監督：阿久根知昭 出演：広末涼子、滝藤賢一、一青窈他 / 1時間58分 / 東京テアトル 配給 / 12月19日よりテアトル新宿にて先行公開
2016年1月9日より全国拡大公開 <http://hanamiso.com/>
© 2015『はなちゃんのみそ汁』フィルムパートナーズ





OKAYAMA MOVE UP PHOTO REPORT

at AEON MALL OKAYAMA

11.21

JAPAN MOVE UP special edition vol.7

special guest : Dream Aya / Shizuka / Erie

11.23

MOVE UP GIRLS CONTEST 2015

special guest : 増田 有華



special partner

イオンモール岡山

TRANSIT
Made In The Future

みんなのあしたにハッピーを
Coca-Cola West





OKAYAMA MOVE UP PHOTO REPORT 1

at AEON MALL OKAYAMA





1.21 JAPAN MOVE UP special edition vol.7

special guest : Dream Aya / Shizuka / Erie

2015年11月21日、イオンモール岡山内、未来スクエアにて「JAPAN MOVE UP special edition vol.7」が開催されました。今回のスペシャルゲストはDreamよりAyaさん、Shizukaさん、Erieさんの3名。約500人のファンの前で、ここでしか聞けない様々な、元気になるトークが行われ、大盛り上がりの1日となりました。



今回の収録の様子は、Podcastにてノーカット版 配信中!!
<http://www.jfn.co.jp/moveup/>



JAPAN MOVE UP supported by TOKYO HEADLINE

日本を元気に!! TOKYO FM (80.0MHz)
毎週土曜日 21:30~21:55

「日本を元気に!」をテーマに、毎回各界の著名人をゲストにお招きし、元気になるためのトークをしています。リスナーの方が思わず元気になれるトーク満載で、東京で絶賛放送中!!



THANKS!! OKAYAMA

11.21

JAPAN MOVE UP special edition vol.7

special guest : Dream Aya / Shizuka / Erie



OKAYAMA MOVE UP PHOTO REPORT 11.23 MOVE UP GIRLS CONTEST

at AEON MALL OKAYAMA special guest : 増田 有華

2015年11月23日、イオンモール岡山下、未来スクエアにてOKAYAMA MOVE UP GIRLS CONTEST2015が開催されました。
 初開催となる本コンテストは、グランプリには株式会社ファインシードが手がける携帯アプリ『こっそり農遠』のイメージキャラクターの就任、
 また、今後のOKAYAMA MOVE UP の活動をサポートするMIRAI GIRLを3名決定するコンテスト。数多くの応募から当日は最終選考10名が登壇し、
 グランプリに赤木 麻友さん、MIRAI GIRLには石部 咲陽子さん、梶原 知里さん、高島 彩さんが選ばれました。4名の今後の活動にご期待ください!!



OKAYAMA MOVE UP PRESENT'S

MOVE UP BOOKS

powered by



人生が「アがる」一冊を、あなたに。



vol.5 知っておきたい、お家でできる健康術

年末年始の間に体調を崩していませんか？

元気に新年を始めたい人におすすめ、人気健康法に関する本をご紹介します。



Category 『爪もみ』 select.01

指をもむと病気が治る! 痛みが消える!
(「指もみリング」2個付き)

著者: 松岡 佳余子 出版社: マキノ出版

Comment from TSUTAYA
手指は、全身の縮図です。付録の指もみリングを指にはめてコロコロ転がすだけで、簡単手軽に実践できます。また、足もみと違って外出先でもできますし、空いた時間に手軽にできるところが素晴らしいです。



Category 『耳ひっぱり』 select.02

耳をひっぱるだけで超健康になる

著者: 飯島敬一 出版社: フォレスト出版

Comment from TSUTAYA
実際にやってみるとすっきりします。たった3秒「キュッ! キュッ! キュッ!」と耳をひっぱるだけ! 疲れた体がリセットされるだけでなく肩こり、冷え症、肥満、不眠などあらゆる心身の不調に一撃。



Category 『耳ひっぱり』 select.03

1日1分であらゆる疲れがとれる 耳ひっぱり

著者: 藤本靖 出版社: 飛鳥新社

Comment from TSUTAYA
日本テレビ「PON!」で本書が紹介され大反響!! 最近何となく疲れるー!と感じている人に試して欲しい。身体の疲れと心のストレス両方が、たった1分の「耳ひっぱり」ですっきりリセットされます。



Category 『呼吸法』 select.04

呼吸ひとつで「怒り」「イライラ」がずっと消える本

著者: 椎名 由紀 出版社: 宝島社

Comment from TSUTAYA
いままぜ呼吸法がブームになっているのか、どうして呼吸が大切なのか、呼吸を変えるとどんなことが起こるのか、知りたい方にはおすすの本。具体的に呼吸のやり方も紹介されていますので、実践にも役立ちます。



Category 『瞑想』 select.05

「心の疲れ」が消えていく瞑想のフシギな力。

著者: 地橋 秀雄 出版社: 三笠書房

Comment from TSUTAYA
1日10分でできる「心のお洗濯」。1万人以上に瞑想指導をしてきた著者が教える心をピュアにする瞑想の本。「瞑想に興味があるけど、なんとなく敷居が高い」そんなふうに感じている初心者におススメです!



Category 『笑顔』 select.06

動物アルファ図鑑 見ているだけでリラックス

著者: 松原 卓二 出版社: マガジンハウス

Comment from TSUTAYA
笑いや笑顔は最高の健康法。見ているだけで、α波が出ちゃう。ほっこり、まったり、ゆるゆる写真集。大人も子供も癒されます。自分でニヤニヤ眺めるだけでなく、誰かにプレゼントしたくなるような本です。



Category 『笑顔』 select.07

動物オメガ図鑑 カワイイのはクチでした

著者: 松原 卓二 出版社: マガジンハウス

Comment from TSUTAYA
笑いや笑顔は最高の健康法。ページごとにニヤニヤ、ニコニコしてしまう自分がいます。一家に一冊、ときどき元気ないときにバラバラめくるのも、よいかもしれません。ω、さいごーです。



Category 『足もみ』 select.08

「足もみ」で心も体も超健康になる!

著者: 田辺 智美 出版社: 三笠書房

Comment from TSUTAYA
「足もみ」は、副作用のない、健康を守る最高の薬! 「肩こり」「糖尿病」「ぜんそく」「便秘」「不眠症」という具合で60種類ほどの病気1つ1つに関して、やり方が載っているので読みやすいです。



Category 『睡眠』 select.09

驚くほど眠りの質がよくなる 睡眠メソッド100

著者: 三橋 美穂 出版社: かんき出版

Comment from TSUTAYA
眠りの悩みは千差万別、だから快眠のための方法を100個紹介。【首や肩の凝りを軽減するバスタオル枕の作り方】、【イビキと二重アゴに効く舌まわし体操】、【夏でも冬でも快眠するコツ】などなど盛りだくさん。



Category 『睡眠』 select.10

お風呂の達人 バスクリン社員が教える究極の入浴術

著者: 石川泰弘 出版社: 草思社

Comment from TSUTAYA
入浴剤の老舗バスクリン社員が、長年の入浴剤研究でわかった「正しいお風呂」の入り方を大公開! 心身の疲労回復からメタボ解消やダイエットまで、目的にあった入浴術をわかりやすく紹介します。



TETSUYA's カリキュラム in 美作大学 レポート&インタビュー

EXILE TETSUYAが所長を務める『EXILEパフォーマンス研究所(E.P.I.)』から、未来のパフォーマーを育成するべく開発された『TETSUYA'sカリキュラム』。今回は、2015年12月7日、美作大学にて行われた本カリキュラムの様子をレポートします!!

TETSUYA'sカリキュラム in 美作大学 プログラム

<座学>

- 趣旨説明
- 夢を色紙に書く
- 生徒をランダムに指定して「夢」の発表
- 座学まとめ

<実技>

- ストレッチ~ウォーミングアップ
- リズムトレーニング(基本動作)
- リズムトレーニング(応用動作)
- リズムトレーニング(Rising sun ver.)
- まとめ

夢に向かって、真っ直ぐに。

本日を迎えるまでには長い計画期間があったと思うのですが、授業を終えての今の想いと本日の授業の印象をお教え下さい。

TETSUYA(以下、T):長い準備期間、約2年くらいですかね。今までTETSUYA'Sカリキュラムという名前でEXILE PROFESSIONAL GYM(EXPG)で開催させていただいたり色々なところを訪問させてもらって色々な経験を経て、ようやく美作大学に来させていただきました。こうやって県外に出て活動ができてすごくうれしかったです。後は何より生徒さんが喜



んでくれたのが一番来てよかったなと思いました。すごく意味のある、僕が講義するというよりは楽しい時間過ごせたらいいなという想いで来てます。でも彼ら彼女たちの心に何か残ってくれて自分の夢に繋がってってくれたらすごく僕にとっても幸せだと思います。

何故、この美作大学でこのカリキュラムを行うことになったのですか。



T:元々、リズムジャンプというリズムトレーニングのラインを開発されたのがここ美作大学の准教授をされている津田幸保先生になるのですが、そのリズムトレーニングを僕が知った時にすごい魅力的だったんです。それでそれを深く突き詰めていって「誰が作ったんだろう?」と思い、色々調べて探していったら、津田先生と出会う事ができました。それからずっとお付き合いをさせていただき、津田先生とお話をさせてもらっている中で、様々なスポーツ選手やダンサーの方が取り入れていたり、子どもの身体の発達についても効果的というのを伺って、僕自身も勉強し、興味を持つようになりました。いつか先生の大学に遊びに行く日が来たらいいですね!っていうのも何年も前から話してて。自分の夢も叶った瞬間でもあったし、津田先生とこうやっていい関係を持たしてもらっているからこそこういう時間が持てた訳で、すごい感謝しています。

岡山の夢を追っている大学生や子ども達にメッセージをお願いします。

T:岡山だからとか、場所は関係ないと思いますが、自分の好きなことにまっすぐに向き合っ、どれだけ好きになれるかによって自分の夢を掴む速度も変わるだろうし、思っている事を全部掴むにはやっぱり自分しかないし。素直にやりたい事をまっすぐにやって自分の夢を掴んで欲しいなって思います。また岡山にも遊びに来ます!そのときは、是非美味しいものが食べたいです(笑)。



このプロジェクトが始まるにあたっての経緯と、その際の皆さんの想いはどんなものだったんでしょうか？

BAZ-K (以下、B)：元は自分が今展開している『OKAYAMA CITY』を使って、もっと岡山を宣伝していこうという想いがあったんですね。そんなときに知人から中山さんを紹介してもらい、今の岡山のきびだんご事情などを聞いていたんですね。その時に自分としては是非『OKAYAMA CITY』を使って何かをやりたいと思ったんです。そこから少し時間は空いたんですけど、自分自身が『OKAYAMA CITY』のパーカーなどを展開していることから、OKAYAMA AWARD も受賞できたという



こともあって、今ならメディアへの影響力も少しはとれるようになったので、是非今のタイミングでやりませんか？と持ちかけたところ、中山さんから二つ返事で「やりましょう！」と言っ

たいただき、そこから話がスタートしたんです。当初はデザインも自分たちでやろうと考えていたんですけど、自分自身、『OKAYAMA CITY』の立ち上げから今に至るまでを経験をして、一人のプレーン、影響力には正直限界を感じていたんです。なのでずっと3本柱で仕事をしたいと考えていて、その中で今回はデザイン会社を巻き込みたいと思い、探していたところ、トータルデザインセンターの上村さんと出会ったんです。上村さんもかなりのハイセンスを持たれている方で、すごく惹かれるものがあつたんです。



よくこのコーナーで言っていることでもあるんですけど、保守性が悪いという訳ではなく、保守をしなければならぬ部分もあるんですが、やっぱり新しい風も吹かないと刺激もないし、マーケットも大きくならない。ただ、新しいものだけでもだめで、古くからあるものと、新しいものを上手く混ぜ合わせ、何か岡山が盛り上がることを発信したいとずっと思っていた中で、こうやって老舗の中山昇陽堂さん、そしてデザイン業界で老舗のトータルデザインさんと出会い、そして自分のようにローカルで真ん中の現場で活動しているこの3人が交われば、何かおもしろい化学反応が生まれると思ひ、この3人、3本柱でプロジェクトをスタートしたんです。

B：上村さんは、なぜ一緒にやろうと思ってもらえたんでしょうか？

上村 (以下、上)：僕は出身が岡山ではないんですね。大学で岡山に来て、岡山の方にお世話になって、岡山が好きになって。そこから岡山に残って、縁あって今岡山で仕事をさせてもらっています。もちろん大阪や東京で仕事をすることもあるんですけど、やっぱりいつも、岡山で何かいいことが出来たらという想いで仕事をしています。なので今後も大阪や東京で会社を



する気はなく、都会からの仕事を岡山に持ってきて、大きいことを言うと、バリバリのデザインをしたいなら都会に出て行かないといけない、という感覚ではなく、岡山でもバリバりに都会の仕事ができるデザイン会社があってもいいと考えているんですね。やっぱり岡山が好きなので、岡山の方に恩返しをしたいんです。そんなときにBAZさんが『OKAYAMA CITY』をやっていることを知って、おもしろいな〜と思っていたら、たまたまBAZさんからお話をもらって、なんとそれがきびだんごのお話で(笑)。“これは面白いな！”と。僕自身の勝手なイメージではあるんですが、様々なパッケージデザインな

どをさせてもらっている中で、きびだんごって新規参入はなかなか難しい業種のイメージがあるんですね。そんな自分一人では参入できない岡山に昔からあるきびだんごのお話に、岡山出身ではない自分が携わらせてもらうことができる。とても魅力的ですよ！また、このプロジェクトのスタートともなった、きびだんごを通じて、岡山のために何かをできたら、というお話を聞いたとき、きびだんごは、おこしにつけたきびだんごで仲間を増やし、鬼退治をするという、他県の有名銘菓にはない、誰もが知っているとも言える歴史、ストーリーがある。じゃあそのストーリー通りに、きびだんごで鬼退治ができれば面白い！と思ったんです。今の世に鬼というものは存在しないんですけど、人を困らせたり苦しめたり、悲しめたりする物事を鬼に例えて、そんな鬼から誰かを助けることができたり、岡山も盛り上げられたりすることにも魅力を感じています。硬く言うそうなんですけど、僕自身はお2人とお会いできて、このメンバーで仕事をしたいと思ったのが一番の気持ちです。

B：中山社長は、なぜ一緒にやろうと思ってもらえたんでしょうか？

中山 (以下、中)：私は商売として、日々きびだんごを生産、販売しているんですね。でも、

きびだんごが岡山にとって、本当に必要なものになって欲しい

という想いは、昔から持っていたんです。必要なものって一番分かりやすい例えで言うと、一家団欒の家族が囲むテーブルの上に、お菓子と一緒にきびだんごがある、という状況。自分



の中ではこれが理想だったんですね。でも岡山の人には、きびだんごを買わないし、食べない。この状況を何かを変えることで、どうにか変えることはできないか考えていたんです。でもどうすればいいかなかなか思いつかなくて。そんな中でも1つのきっかけとして、まずは学校の給食に入れてみたりもしたんですが、そこから先に何か発展させることができなかったんですね。岡山の県民性など、いろいろあると思うんですが、あるときにBAZさんとお会いする機会があって、そのときにBAZさんの手がけている『OKAYAMA CITY』のお話を聞いたときに、“なるほどな！”と思ったと同時に、そうやってちゃんと大きな視野で見て、考えている人がいて、そんな人たちがいろいろなことにチャレンジしている姿に、とても共感したんです。その中で、きびだんごというものが、岡山を盛り上げる1つのツールになるのであれば、是非協力したいと思ったんです。そこから3人でお話をさせてもらって、先ほど上村さんが言われた物語の中のきびだんごのようにやっていきたいというお話をいただいて、さらに自分の中で響いたんです。自分自身、うちの会社が老舗のお店ということは全く考えてもいないんです。ただ、そう考えていないに関わらず、何も出来ない自分がいるということもすごく感じていたんです。きびだんごを使って岡山のために何かをしたいと思っけてもなかなか発想も出てこなかったんですね。なので今回、そんな発想を持っている若いお2人と出来るということがすごく心強いんです。

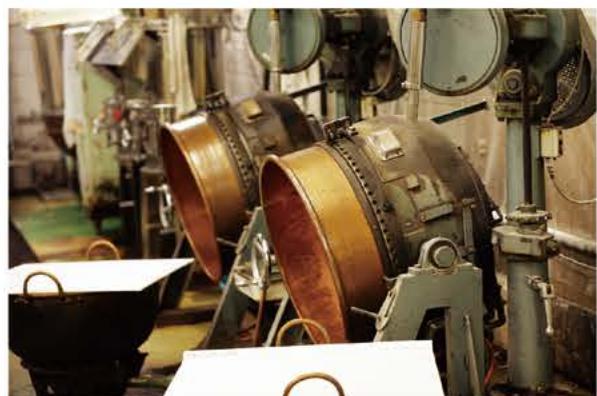
B：でも逆に持ちたくても持てないブランド力や、ルートを中山さんは持っているんですよ。なのですごく勉強にもなりますし、そういう意味では、お互いに持っていないものを補填しあえる3社なのかなと感じています。僕自身がこうしたいっていうわがままな想いを皆さんに形にしていってもらっているんですが(笑)。

中：でもやっぱりこういうプロジェクトって、やりたい！という想いでどーんと突っ走ってくれる人がいないと止まってしまうんですよ。これまでそういった経験もしてきたし、僕自身が止めることも多くあつたんです。なので走ってくれる人がいるということで、すごくやりやすいんです。



岡山
おかげさまで

-Represent OKAYAMA-





岡山名菓『きびだんご』について
新たなプロジェクトの内容とともに、
ぶっちゃけます!!

1.6 『Go to ONIGASHIMA!』

岡山県民ならず、全国の誰もが知っているであろう、岡山を代表するお菓子『きびだんご』。今、このきびだんごを皮切りに、新たなプロジェクトが岡山から発信されようとしている。その名も『Go to ONIGASHIMA』。今回はそのプロジェクトの全貌はもちろん、プロジェクト発起に至る想い、また今後の展望について“ぶっちゃけ”で対談してもらいました。

photography: 西平 佳史 (内田伸一郎写真事務所) / place: 中山昇陽堂



Today's GUEST
中山 健太郎
株式会社中山昇陽堂
代表取締役社長



Today's GUEST
上村 祐貴
株式会社トータルデザインセンター
代表取締役社長



INTERVIEWER
BAZ-K
THE MANSION オーナー



ちなみに、今回『鬼退治』というワードがポイントだと思うのですが、具体的にどんなことをされるんでしょうか？

上：今回のプロジェクト名が、『**きびだんごプロジェクト Go to ONIGASHIMA**』というものなんです、



Go to ONIGASHIMA!?

具体的にいうと、先ほども話したように、今の世の中で人々を苦しめる物事を『鬼』に例え、その鬼を退治していくという意味を込めて、売上の3%を社会貢献活動をしている岡山の団体(児童福祉施設や盲導犬育成団体、シングルマザー支援団体等)に寄付します。桃太郎のストーリー通り、まずはこのきびだんごで仲間を増やし、仲間全員で鬼退治に行こう!という想いを込めた、きびだんごを使った**社会貢献活動**です。おいしいだけではなく、“鬼を退治できるきびだんご”という取り組みも、今後皆さんに発表していきます。

B：本当に素晴らしいプロジェクトなんです。自分のわがままな発想かもしれないんですが、こんな商品がいいなと言えば中山さんが出てきてくれるし、こんなデザインがいいなと言えば上村さんが出てきてくれる。ただ、最初このプロジェクトがスタートしたときからずっと心がけていることは、**常にお客さん目線であるということ**。岡山の人って普段からきびだんごは食べないし、もちろん家に常にあることもないですよね。ただ、生産者はそうして欲しいという想いがある。この差にずっと違和感を覚えていて、そんなときに県外の人から「きびだんご意外とおいしいよ」って言われたんです。それがチョコきび餅だったんですね。さらに冷やして食べるともっとおいしくて、それを中山さんに持ちかけると、中山さんの周りでも、もっと宣伝したら売れるのに、という会話をしていたそうなんです。これが最初のきっかけとなり、コンセプトも味も3人でどんどんブラッシュアップして、今回の商品『塩チョコきびだんご』になっていくんですね。やっぱりいいものは世の中に出していかないと売れないですよね。でも、ただ売るだけだと生産者と販売者がWINになるサイクルではなく、お客さんまでも巻き込んだ**WIN×WIN×WINの商品**にしたかったので、今回の社会貢献活動を兼ねた商品にしたんです。社会貢献活動って、自分のところが儲かっていないとなかなか敬遠しがちなんですけど、やっぱり評価ってあとからついてくると思うんです。その評価が流行りになって、カルチャーになる。だからそのカルチャーをつくるために最初はしんどくてもどうしても取り入れたかったんです。だから欲を言えば、お土産という形で購入してもらうことはもちろんなんですけど、岡山の小さい子どもからおじいちゃんおばあちゃんにまで全キャリアに食べて楽しんでほしいですね。

上：欲になるかもしれないですけど、おいしくて買ってくれる人もいれば、このプロジェクトの取り組みに共感して買ってくれる人もいます。食べ物を出していく以上、絶対的な味の自信は必要なので、お客さん目線というのは大賛成です。お客さん目線という、価格設定も同様のことが言えると思うんです。少し失礼になるかもしれないんですけど、コンセプトや取り組み内容の打ち出しで頭でっかちになってしまって、価格

設定がすごく高いものが今の世の中には非常に多いと感じるんですね。でもそれだとWIN×WIN×WINの関係は作っていきにくいですよね。だから今回のプロジェクトでは、価格も適正で、味はもちろんおいしくて、さらにそれによって誰かのためになる、というしっかりしたWIN×WIN×WINの形をつくりたいんです。ただ、今回売上の3%を寄付します、と公に打ち出していく以上、まずは売れないと土俵に乗っていかないので、根本的なことから常にお客さん目線で進めていきます。

B：今回はまず3%を寄付するという形で進行していますが、例えば元阪神タイガースの赤星さんがされていた“1盗塁で1つの車椅子を寄付”という取り組みのように、もっと別の形でも誰かのためにできることはあると思うんですね。例えばきびだんごが1つ売れば、シングルマザー支援団体にオムツを寄付したりなど。なので、この3社だけのプロジェクトにするのではなく、一緒におもしろい化学反応を起こしたいという方や、突破口を探している方がいれば、すぐにビジネスになるかはわからないけど、一緒に取り組むことで、新たな人脈ができたり、先ほども言ったようなカルチャーができて、ムーブメントができると思うんです。そのカルチャーをまずはどんどん根底につくっていきたくて、もし今回この紙面を見て、何かを一緒に取り組める方がいれば、是非参加していただきたいですね。

上：だから今回のプロジェクト名を大きな視野で『GO to ONIGASHIMA』とうたっていて、一緒に鬼ヶ島に行きたいという人がいればどんどん参加してほしいですね。

中：そうですね。そういった意味では狭い視野でなくて広い視野で見ると、買ってくれるお客様はもちろん、このプロジェクトに協力してくれる仲間が増えることも、いわゆる今回のターゲットになるなと考えています。



▲「塩チョコきびだんご」制作段階パッケージサンプル

B：何度も言うんですけど、このプロジェクトに興味があれば是非一緒にやりたいんです。よく県外の方から、岡山の方ってインプットは得意だけど、アウトプットが苦手だと聞きます。どんな業種においても、今からでも東京に出てやっていけるぐらいの個々のスキルを持っている人は岡山にたくさんいると思うんですが、発信の方法がわからず、アウトプットが上手く出来ていない状態なんですよね。いろんな方と話をしていると、みんなやっぱり何かをしたいという想いはあるんですよ。でも発信をしたいんだけど、発信するプラグがなかったり、何をするか、したいかがまだ明確になっていないような人が多いと思うんです。だったら自分だけが得するようなことを考えるのではなく、このプロジェクトのように、できる人と一緒にやっていけばいいと思うんです。僕たちはこういったプロジェクトが、岡山を盛り上げる何かの起爆剤になってほしいという、ビジネスというよりは、カルチャーをつくっていきたくてという想いが一番なので、これが岡山の人、街に浸透していったらうれしいですね。

『きびだんごプロジェクト Go to ONIGASHIMA』第1弾商品
今年3月1日発売決定!!

「塩チョコきびだんご4個入り」360円(税抜)

玉野産の黍粉、牛窓産の塩を使用した塩チョコきびだんご。チョコレートの中にはアクセントとしてアーモンドが入っており、幅広い方に親しんでいただける一品です。岡山駅さすて店等、県下中山昇陽堂販売店で販売開始。



▲「塩チョコきびだんご」制作段階パッケージサンプル

Special Interview Column

岡山生まれのシンガーソングライター・玉川洋輔が聞く!

インタビューー：玉川洋輔

1st シングル「雨」発売決定!
 二度と繋げない君を想い続ける…もう叶わないとわかっていても。
 傷切ない極上のバラードソング。玉川洋輔、待望の1st シングル、
 ついにリリースが決定!! 【発売日】12月25日【価格】¥1000(税込)
 Ameba: <http://ameblo.jp/0912yosuke1225/>
 facebook・Twitter・Instagram: 玉川洋輔で検索



DREAM ARTIST

Vol.9 おがさわらけいご 「映画館でディズニー映画を見てると自分の手掛けた音楽が流れる、それが夢」

on Starting Point — おがさわらけいごのはじまり —
 「いつの間にか音楽が始まっていた」

玉川：まずはおがさわらさんが音楽に携わるようになったきっかけを伺いたいです。
おがさわら：子どものころから聞いたことがない音楽が頭の中で流れることがすごくあって、それが普通だと思って過ごしていたんだけど、中学に入ってギターとかを始めた時に「あ、あれは意識的に作曲していたんだ」って気づいたんです。だから、いつの間にか音楽は始まっていたという感じだね。

玉川：苦労されたことって何でしょうか？
おがさわら：それはいろいろあるよ。これからも苦労するだろうし(笑)。音楽に

関していえば、バンドやユニット組みによって音楽上のパートナーを見つけることかな。恋愛と一緒に相性があるんだよね。音、リズム感、好み。みんな違う。まだ、本当の意味での音楽のパートナー、恋人、女房役は、まだ見つかってないんだ。海外のミュージシャン、紅白に出るような歌手の人とも一緒にやったこともあるけど、自分で言うのもおこがましけどさ、相性だから合わないこともあるんだよ。でも絶対いると思うんだ、運命の人が。でも見つからないんだよね。だからおもしろいね。

to Make Dreams Come True — 夢のかなえ方 —
 「型を知ることから始めよう」

玉川：CM音楽やラジオ、デザイン、アーティストへの楽曲提供だけでなく、ミュージシャンでもある。幅広く活躍されていますね。

おがさわら：商業的に売れるもの、音楽という芸術を信じて突き詰めていくこと、どちらも経験していますね。

玉川：それらのすべてをこなすのって難しそうです。

おがさわら：それは勉強してきたから。勉強、基礎は大切だよ。何が標準値かを知らずに闇雲に他と違うことがしたい人は

多いけど、型や基礎を知らずして奇抜を狙うのは型無しなのよ、型破りじゃなくて。あなたが奇抜と思いついてるものは10年20年前に確立されて終わってるかもしれない。そこに向かって、どストライクなことやってるのに気付かないって…(笑)。

玉川：まさに、努力や経験に勝るものはないですね。

おがさわら：ピカソって10代で王道のデッサンを極めていたって知ってる？ 俺た



ちは、常識とか当たり前っていう思い込みのなかで生きてるんだけど、ピカソは基礎を知り尽くしたから、それを破って常識や当たり前の外に出て子どもの様に物事をまっすぐに捉えて創作をした。だからすごい。これって対芸術だけじゃなくて、生き方や夢のかなえ方に関してもいえることだと思う。



おがさわらけいご

岡山県岡山市出身。1983年11月8日生まれ。ミュージシャン、シンガーソングライター。楽曲やプロモーションビデオの制作、WEB制作、デザイン、イベント制作などを手掛ける有限会社ニッティ・グリッティの代表取締役を務める。昨年リリースされた玉川洋輔のCD「雨」をプロデュースしている。
 【URL】 <http://o-nitty-gritty.com/>

for The Readers — メッセージ —

「カッコいい大人を見つけて、あこがれろ！」

玉川：夢は夢。そう思っている人は結構いますよね。とらえ方は本当に人それぞれ違います。

おがさわら：夢は目標だっていう人もいるけど、俺にしたら生きがいといいんじゃないかなと思う。自分の人生を充実させるもの、ね。ただ、夢がある、やりたいことがあるなら、それを叶えてあげないと自分がかっこいいし、そういう人を見ると自

分を大事にしなよと思う。自分ってさ、実は自分のものじゃないんだよ。親の細胞から分裂して生まれて、環境や教育を用意してもらって、いろんな人に出会って、怒られたりして作られてきたわけだから。その人たちが創り上げてくれた自分をむげにしてしまうことになる。大事にしなかったら罰が当たる。

玉川：おがさわらさんの今の夢は？

おがさわら：ディズニーのアニメーション映画を映画館に見に行くと、自分の音楽、手掛けた音楽が流れる。それを友達と一緒に見て終わったら“最高でしょ”って自慢しまくる(笑)。人間にできないことってないからね。それまでに自分の寿命が持つかどうかでそれだけだよ。

玉川：最後に読者にメッセージを。

おがさわら：テレビのなかの人、歴史上の人物、周りにいる人でもいいから、カッコいい大人を見つけて、あこがれろってこと。こうなりたい、この人に叱られたいと思って、あこがれろってことかな。これができなかったら俺んどこ来って思う(笑)。俺にもそういう人がいっぱいいたし。あともう一つ、人生は思っているよりシンプルってこと。やりたい？ やろう。それだけなんだよ。

DANCEの道

EXILE TETSUYA “男を上げる” Monthly Column supported by ANGFA

第41回 「2015年 to the 2016年」

ふ と入ったお店のトイレの壁にこんな文章を見かけました。

「人の欠点が気になったら器の小さい人。人の短所が見えなくなってきたら相当の人物。人の長所ばかり見えてきたら大人物」

なるほど… (笑)。皆さんはどんな人ですか？

僕は…、まだまだですね (笑)！ 要するに人は人に見られているし、人からどう見られるかは自分次第ってことなのかな？ まぁ他人にどう思われても自分がこう！ って決めた生き方ならばどう見られてもいい！ なんとも思いますが、どうせなら周りの人たちがHAPPYになる生き方を僕は選びたいですね。

何か上手くいかない事が続く時って必ず自分中心な考え方をしている時だになって思います。生きていれば必ず良い事もあれば悪い事もある。だけど周りの人たちが手を差し伸べてくれるか

くれないかは自分次第なんだと思います。トイレの壁にあった、他人の長所ばかり見える人は周りにたくさんの仲間がいて相乗効果しながら生きているんだらうと思います。今年の僕はそんなふうにごめんなさいか？

2015年も残りわずかな年の瀬に、今年をいろいろ振り返るとしっかりとやるべき事を残さずできたのか？ 何をやり残したのか？ なんて考えてしまいますね。しかし、いくら振り返っても時間は戻らないので、来年のことを考えていたら、あまりにも楽しそうな事があすぎてワクワクしっ放しです (笑)。

まず、EXILEの活動はもちろんですが、2015年に正式メンバーになったDANCE EARTH PARTY、そして先日発表になりました、THE SECOND from EXILEの本格始動が始まりますし、秋からはアリーナツアーも決定しました！ 個人で3グループを兼務する事はなかなか経験できない事ですが、自分のパフォーマンスの可能性や色をグループに合わせて表現できる2016年になるので自分でも気合が入ってい

ます。SECONDのメンバーで今から来年に向けていろいろと画策していて、二代目の時から応援していただいているファンの皆さんにも、これから僕らを応援してくださる皆さんにも喜んでもらえるような企画をたくさん用意していますので、ぜひ楽しみにしてください。

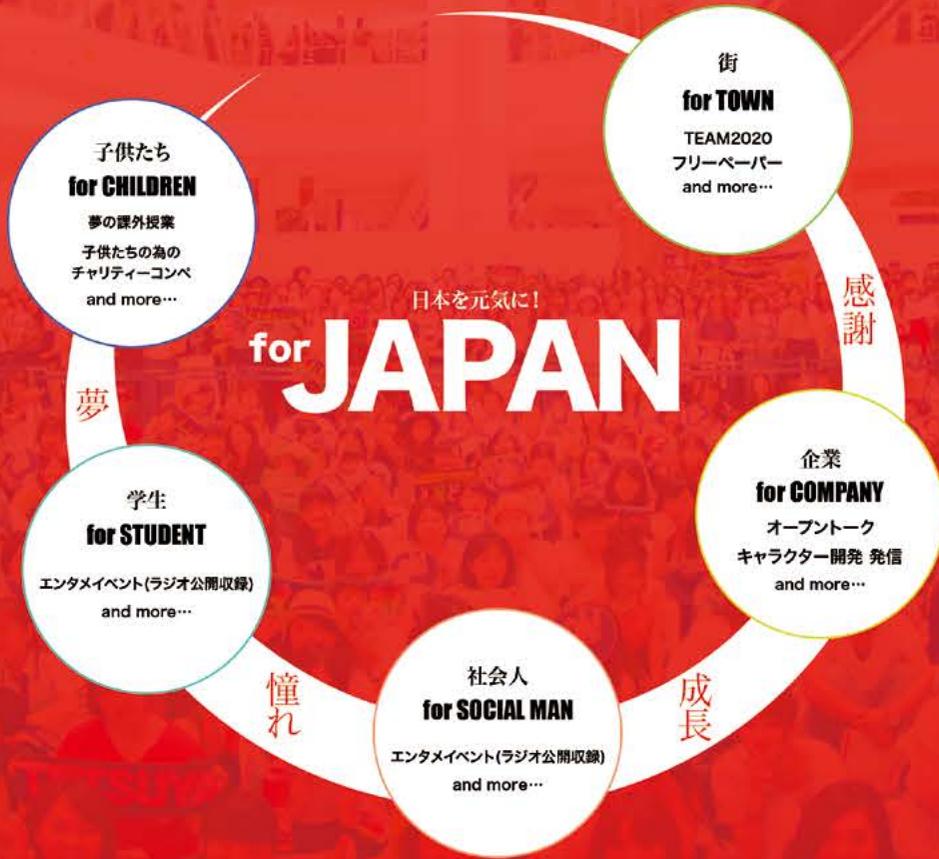
他にも僕がやっている個人活動のEXILE パフォーマンス研究所やAMAZING COFFEEなど、本当に自分で言うのもおこがましいですが、2016年は勝手にパーフェクトイヤーと名付けてすべてに全力の情熱をぶつけて頑張らせて頂こうと思っておりますのでTETSUYA's 七変化お楽しみに！ そして今年は何と言ってもマツさん、ウサさん、マキさんのEXILEでのパフォーマンスがラストを迎えるので、最後の最後の最後のワンカウントまで、しっかりとお三方の背中を脳裏に焼き付けたいと思います。皆様2015年良いお年をお過ごしください！ そして2016年の素敵な年明けを迎えられるように心から願っています！ (^o^)/



神奈川県横須賀市出身。19歳からダンスを始め、横須賀、横浜、東京などのクラブイベントで活動。ダンススクール「EXPG」にてインストラクターをしながら、さまざまなアーティストのバックダンサーとして活動。2007年1月、新生J Soul Brothersのメンバーに抜擢され、2009年2月にデビュー。同3月1日からはEXILEのパフォーマーとして多方面で活躍。

(TOKYO HEADLINE vol.657 2015.12.28 発行より)

岡山から日本を元気に!! OKAYAMA MOVE UP



「岡山を元気に!」「岡山から日本を元気に!」をコンセプトに、フリーペーパーOKAYAMA MOVE UPの発行をはじめとし、各種イベントを実施するなどエンタテインメントを中心に岡山を盛り上げる活動を行っています。
この活動が意義あるものとして皆様方によりご賛同頂けるよう、「岡山県民が元気になる」「岡山県民が岡山を好きになる」「他府県の方々が岡山の良さを知ってもらう」事を目的としています。

「日本を元気にする為に、まずは岡山が元気になろう!」

その為に何が必要か?子供たちに「夢」を、若者に「憧れ」を、社会人に更なる「成長」を与え続ける...それが企業を街を発展させ、岡山を元気にしていく事だと確信します。さらに TOKYO MOVE UP との連携による中央とのネットワークを生かしたコンテンツを創造し、若年層への「認知の拡大と巻き込み」を実現します。
また地方創生のモデルのひとつとして「社会的活動」と「エンタテインメント」、「スポーツ」の融合による岡山を元気にするプロジェクト、それが OKAYAMA MOVE UP です。

for CHILDREN
夢の課外授業



東海朝2014.5.31
講師:工藤山陽(水戸黄門)

for CHILDREN
子供達のための
チャリティーコンペ



東海朝2014.11.11

for STUDENT & SOCIAL MAN
エンタメイベント
(ラジオ公開収録)



東海朝2015.7.14
ゲスト:DMWZ EARTH PARTY GOLE
USA, DORE TETAYIA, Dream 510&2

for COMPANY
SPECIAL
オープントーク



東海朝2015.5.23
ゲスト:伊藤高典(前長官) 北原 健治(市長)

for TOWN
フリーペーパー
『OKAYAMA MOVE UP』



for TOWN
TEAM2020
ネットワーク展開

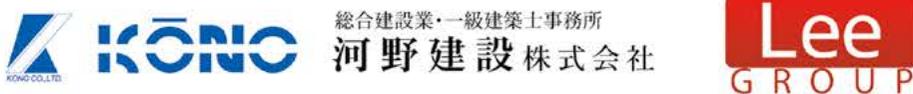


東海朝
各イベント小報、同時に開催

OKAYAMA MOVE UP 2016 CONTENTS



OKAYAMA MOVE UP実行委員会 加盟企業一覧 (2016年1月11日現在)



株式会社DMM.com 有限会社ル・クルジャパン

special partner **Coca-Cola West** イオンモール岡山

54 JAPAN MOVE UP WEST

OKAYAMA MOVE UP

隔月誌【オカヤマ ムーブアップ】 2016年1月11日発行 vol.18 JANUARY

- 発行人／源 眞典(株式会社HEADLINE WEST) 一木 広治(株式会社ヘッドライン)
- 発行所／株式会社HEADLINE WEST
〒700-0925 岡山県岡山市北区大元上町12-14 Leeビルディング4F TEL:086-250-8089
- 編集・製作／株式会社ヘッドライン
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷2-9-6/VILピソソ3 403号

